

スタチ新品種「勝浦1号」の品種登録について ～緑色が濃く、貯蔵性に優れた新品種～

スタチ果皮の緑色が濃く、貯蔵性に優れた新品種「勝浦1号」を開発し、令和6年3月12日付けて「勝浦1号」が品種登録公表されました。
今後も関係機関と連携し、新品種の普及推進による産地振興に取り組んで参ります。

- 主な特性と導入効果（従来のスタチとの比較）**
 - 果皮の緑色が濃く、退色が遅く、収穫適期が長い晩生品種（写真2）
 - 果実の大きさ、果肉色、風味は従来のスタチと同程度
 - 樹姿はやや開張で、やや矮性
 - 貯蔵中も果皮の緑色が保持され（写真3）、貯蔵性・店持ちが良いことから、貯蔵スタチの品質低下により品薄となる2月～3月にも安定供給が可能となるため、周年供給体制強化による生産者の所得向上が期待
- 開発の経緯**

平成20年度	貯蔵試験において、袋に穴が開き、黄変した果実群の中から、緑色を保った果実を発見し（写真1）、実生の育成を開始
平成25年度	初結実
平成26～28年度	センター内で果実調査を実施し、当品種を選抜
平成29年度～	現地適応性試験により、栽培及び果実の特性を調査
令和3年度	農林水産省へ品種登録出願
令和6年3月12日	農林水産省から品種登録公表
- 今後の予定**

令和6年春	苗木の供給開始（1,500本程度、主な産地：神山町）
令和10年	果実の初出荷（1～3月に1.5 t 程度市場出荷見込み）

<参考>

収穫と出荷の時期

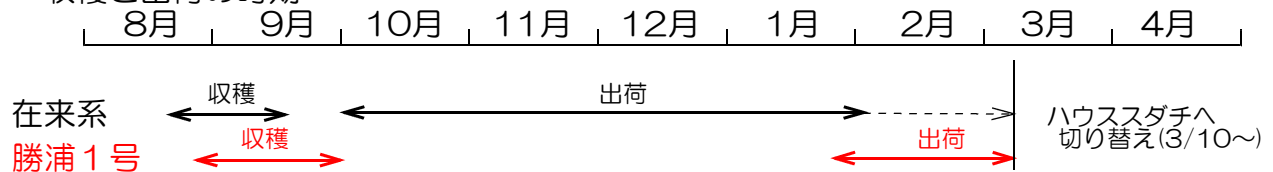


写真1 発見時の果実
（貯蔵3か月 H20.12.2）
左：勝浦1号 右：在来系



写真2 収穫時の果実の比較
（R2.9.16）
左：勝浦1号 右：在来系



写真3 貯蔵5か月後の勝浦1号
（R5.2.6）